

令和5年度 医王山小中学校学校経営計画

1 校訓・教育目標

(1) 校訓 勤勉（まじめ） 正直（すなお） 敬愛（なごやか）

(2) 教育目標

郷土を愛し、心豊かにたくましく、創造的に生きる児童生徒の育成

2 教育方針

- ・互いに認め合い、協力し合い、集団としての力を高めようとする態度を育成する。
- ・基礎基本を習得し、それらを活用する力の向上を図ることで主体的に学ぶ児童生徒を育成する。
- ・生活習慣や体力の向上を目指し、健全な生活態度を育成する。
- ・児童生徒による自主的な活動を通して、表現力・創造力を育成する。
- ・医王山地区の自然や文化に親しみ、豊かな心や郷土を愛する心を育成する。

3 めざす児童生徒像、教師像

(1) めざす児童生徒像

- ・自他を認め、積極的に関わり合い、協力することのできる児童生徒
- ・目的を持ち、意欲的に学ぶことのできる児童生徒
- ・体を鍛え、規律をもって行動できる児童生徒
- ・集団生活を通して、自分の能力を高めることのできる児童生徒
- ・地域や社会のための活動に積極的に参加できる児童生徒

(2) めざす教師像

- ・児童生徒に深い愛情を持ち、個々の実態に合った指導ができる教師
- ・全体の奉仕者としての使命と責任、意欲と情熱を持って取り組み、地域や保護者の信頼やニーズに応える教師
- ・絶えず自己研鑽に務め、専門性を高めるとともに、教育に関する理念や識見を持つ教師
- ・学校運営への高い参画意識を持ち、意欲的に実践する教師

4 学校経営方針

(1) 学校経営の基本方針

教育資産（施設、人材、予算など）、教育課程（年間指導計画、指導法など）を含めたすべての総体としてのカリキュラムを全教職員でマネジメントしながら進化する学校

(2) 学校経営方針

教職員、保護者、地域が「チーム医王山」となり、以下の学校を創り上げる

- ・安心して学べる教育環境のもと、いきいきのびのびと生活できる学校
- ・主体的に学び、互いに高め合いながら、いきいきのびのびと学習できる学校
- ・保護者・地域とともに歩み、郷土を愛し豊かな学びと豊かな心を育てる学校

5 中期目標と方策

(1) 安心して学べる教育環境のもと、いきいきのびのびと生活できる学校

① 中期目標

- ・本校に来る児童生徒とその保護者の気持ちに寄り添いながら、共感的な人間関係の中で自他の存在を認め合い、学校生活を楽しいと感ずることのできる学校にする。

② 方策

- ・課題を抱えた特認生の実態と指導方針を教職員全員で共通理解し、きめ細かな対応を行う。
- ・綿密な計画と準備をした上で、いきいきのびのびと参加できる学校行事や小中交流行事を、年間を通して計画し、児童生徒同士の自主的・創造的な活動の機会を多く設ける。
- ・全教育活動を通して、児童生徒の非認知能力を育てる取り組みや仕掛けを探求し、計画、実践していく。また、児童生徒の頑張りを教師が認め、褒めることで自己有用感を育てる。
- ・学校全体で互いを認め合い、温かな人間関係が成立する生徒指導を行う。
- ・不登校や問題行動等には綿密な報連相のもと、組織的に迅速かつ丁寧に取り組む。
- ・様々な方法、場面で学校の様子を家庭、地域に伝えることで「開かれた学校」を構築する。
- ・家庭、地域と連携し、現状に即して日常的に防災意識を高める教育を実施する。

(2) 主体的に学び、互いに高め合いながら、いきいきのびのびと学習できる学校

- ・綿密な計画と準備をした上で、児童生徒がいきいきのびのびと参加できる授業を展開する。
- ・少人数を生かした学習指導とともに、思考力を培う課題解決型の授業の実践を行う。その際、プログラミング的思考の手法を積極的に取り入れていく。
- ・小中併設校の特色を生かし、小中の系統性・連続性を重視した小中一貫教育を実践する。
- ・「わかる授業」を行うため、児童生徒の実態を把握し、きめ細かな指導を行う。
- ・児童生徒の学習の成果を相互評価する機会を設け、共感的な人間関係づくりに努める。
- ・授業評価を教材研究、授業改善に生かし、「わかる授業」「自己有用感が得られる授業」を構築する。
- ・小中で授業を日常的に公開し合うとともに、外部講師を積極的に招聘し、授業検討会や整理会を通して学校全体の授業力向上を図る。

(3) 保護者・地域とともに歩み、郷土を愛し豊かな学びと豊かな心を育てる学校

① 中期目標

- ・豊かな自然、文化伝統を生かした体験活動を取り入れ、規範意識や公共心等社会でより良く生きる上で重要な社会性の基本を培う。

② 方策

- ・地域の資源を生かし、総合的な学習の時間や道徳の時間などで、外部人材を活用し、体験的な学習を計画し、郷土を愛する心を育む。
- ・地域行事への積極的な参加を通して、郷土に貢献できる児童生徒の育成を図る。
- ・道徳の時間の充実を図ることで、道徳的な価値に沿って活発な発言を促し、自己を見つめる力を養う。
- ・「郷土愛」を重点項目として、道徳教育の推進を図る。
- ・学校運営協議会を通して、地域・保護者との連携を密にし、学校の諸課題に対する助言を学校運営に生かしていく。

6 今年度の重点的な取組目標と具体的な方策

(1) 安全・安心な学校づくり

- ・児童生徒がいきいきのびのびと生活・学習できる場を保証するとともに、児童生徒の頑張りを教師が認め、褒めることで自己有用感を育てる。
- ・年間を通じて定期的な場を設け、児童生徒の情報を教職員全員で共通理解し、きめ細かな共通実践を行っていく。
- ・小中が連携して、問題行動に対する共通理解に基づく指導を行うとともに、いじめに対しては迅速かつ組織的な指導を行う。
- ・スクールカウンセラーと連携しながら教育相談を充実させ、不登校や登校渋り等にきめ細かな指導・助言を行う。
- ・学校評価を生かし、PDC Aサイクルを回しながら改善していくことで、保護者、地域から信頼される学校づくりを行う。
- ・授業参観、懇談会、スクールフォーラム、学校だより、ホームページ、メール配信を通して積極的に情報提供を行うことで、学校、家庭、地域との連携を深める。

(2) 思考力を培い学力の向上を図るための取り組みとそれを支えるための校内研究の推進

- ・金沢ベーシックカリキュラムに基づく着実な教育実践を行い、基礎基本を確実に習得し、活用力を高める金沢型学習スタイルを実践し、学力の定着を図る。
- ・少人数を生かした学習指導とともに、思考力を培う課題解決型の授業の実践を行う。その際、プログラミング的思考の手法を積極的に取り入れていく。
- ・一人一台端末を取り入れた授業研究に全職員で取り組み、日々の授業でも多くの場面で一人一台端末を活用していく。
- ・小中で授業を日常的に公開し合うとともに、外部講師を積極的に招聘し、授業検討会や整理会を通して学校全体の授業力向上を図る。

(3) 心の教育の推進

- ・温かな雰囲気づくりに努め、児童生徒が創造的に考え、表現しやすい場を設定する。
- ・道徳だけでなく、教科、総合的な学習の時間、特別活動等の教育活動全般を通して心の教育の推進に努める。
- ・児童会や生徒会が主体的に行動し、自己有用感が得られるような特別活動を創出する。
- ・読書活動の充実を図り、家庭とも連携し、児童生徒が本に親しむ習慣づくりに努める。
- ・地域素材と取り上げた学習や体験活動を通し、ふるさとを愛する心を育てる。

(4) 体験活動、ボランティア活動の推進

- ・地域の人や自然・文化を活かした体験活動を取り入れた学習を行う。
- ・地域の清掃、お年寄りとの交流等のボランティア活動を推進し、思いやりの心と地域・郷土を大切にする児童生徒を育成する。

7 教職員の業務適正化に向けた具体的な取組

- ・質の高い教育を提供し、教職員が本務に専念するための時間を確保する取組を積極的に進める。
- ・勤務時間記録により職員の勤務状況を把握しながら取組を進め、効果や課題を検証し、必要に応じ見直し、充実を図る。
- ・全職員が定時に退校する日を月1回設定する。
- ・部活動は、原則週2回休養とする。
- ・8月に連続して7日間の学校閉庁日を設ける。